平成20年度新臨床研修医と沖縄県医師会との懇親会

～琉球大学医学部附属病院およびRyu MIC研修医との懇親会～

理事　玉井　修

平成20年4月4日（金曜日）午後6時より、琉球大学医学部がじゅまる会館においてRyuMIC（Ryukyu Medical Interactive Collabolation）研修医、指導医、沖縄県医師会との懇親会が開催されました。医師不足、医療崩壊など様々な問題が山積している医療の現場に新たな若い人材が希望を持って門を叩いてやってきます。私自身、医学部の学生を何人も自分のクリニックに迎え、新臨床研修医を自院に迎えた事を重ね合わせ、とても厳粛な思いで今年の懇親会を迎えました。自分自身のあり方も問われながら、次の人材に新たな思いを継がなければならない時期でもあります。緊張感を漂わせながらもイキイキとした研修医の表情を見ていると、彼らの時代に伝えるべき事の多さを自覚します。若い世代との関わりは、ベテランと言われる私たちの医療スタンスをもう一度見直させ、若い世代に何を伝えるべきかを常に考えさせられます。

開会の挨拶は沖縄県医師会副会長で県の政策参与でもある玉城信光先生が務められ、「沖縄県の医療を担う人材として、自分を大切にして欲しい」とのお言葉をいただきました。引き続き、沖縄県医師会宮城信雄会長より「患者さんを中心に考え、自分自身を超越した考えを基礎とした医療人としての根幹を形成して欲しい」とのお話を頂きました。私も全く同感で、沖縄県医師会の執行部のあり方がまさしく同じ志であり、同志の集まりが沖縄県医師会執行部のあり方だと意を強くいたしました。引き続き、琉球大学医学部附属病院長の須加原一博先生より医師としての最高の教育者は患者であるとのウイリアム・オスラーの言葉を贈っていただきました。多くの愛情あふれるお言葉に応えて、臨床研修医を代表して安藤美月先生より感性豊かな研修医になりたいとのご発言があり、我が意を得たりと思った次第です。どの様に優れた研修システムでも、研修医の心の熟成を伴わない

臨床研修は不毛です。経験や知識を詰め込む研修には違和感を感じざるを得ません。研修医自身が人間的に大きく成長する研修現場を切望いたします。最後に佐藤良也医学部長に乾杯のご挨拶を頂きました。その昔、私自身平成２年に琉球大学医学部医学科を卒業し、佐藤先生の講義を受けた学生でもありました。大鶴先生の講義を直接拝聴した学生でもあります。琉球大学医学部の発祥の時期、多くの先生方の慈雨を一身に浴びて、幸せな学生であったと今にして思います。今、私が新臨床研修医に対してしている事は、昭和が終わろうとしていたあの時代に受けた無償の恩恵に報いるわずかな恩返しだと思っています。当日は３人の研修医にお話を聞きましたので以下に掲載します。

研修医：千葉綾乃先生

質問１．医師を目指した理由についてお聞かせ下さい。
最初は医師を目指すというより、純粋に医学に興味があって医学部に入りました。

質問２．医師となった今、臨床研修に何を希望されてますか？
きちんとした土台をつくりたいので、そのための適切な方向付けができればと思います。

質問３．将来をどのような医師になりたいですか？お聞かせ下さい。
いろんな意味で思慮深い医師になりたいと思っています。

研修医：安藤美月先生

質問１．医師を目指した理由についてお聞かせ下さい。
私は、幼い頃から父の仕事の関係で、パプアニューギニアをはじめいくつかの発展途上国を旅したり、生活する機会を多く得ました。そこで生活している間に、適切な医療を受けられずに友人や知人が亡くなる体験をいくつか経験しました。そこで発展途上国における質の高い医療の必要性を痛感し、将来は途上国援助に貢献出来るような人間になりたいと思い、医師を目指しました。

質問２．医師となった今、臨床研修に何を希望されてますか？
現在は、自分の希望科以外の科の診療も勉強出来る研修システムとなっています。
さらにRyuMICプログラムの特徴は、琉球大学附属病院以外の医院にも出れるということ。私はこれらの特徴をおおいに利用し、他科の診療や離島医療にたずさわり、可能な限り多くの事を学んでいきたいと考えています。また、RyuMICプログラムの指導医の先生方は皆、医療はもちろん、後輩指導にも熱意を傾けていらっしゃるので、積極的に先生方の医師としての技はもちろん、人間性も学んでいきたいと考えています。

質問３．将来をどのような医師になりたいですか？お聞かせ下さい。
医療従事者、患者さん、患者さんの家族…誰からも信頼される、人間みのある医師になりたいです。

研修医：北野紅美子先生

質問１．医師を目指した理由についてお聞かせ下さい。
医師を目指していた姉の影響が大きいと思う。

質問２．医師となった今、臨床研修に何を希望されてますか？
基本的臨床能力の修得。

質問３．将来をどのような医師になりたいですか？お聞かせ下さい。
患者さんに寄り添った医療を行える医師になりたい。

臨床研修病院群プロジェクト 群星沖縄（むりぶし）

2008年度　新研修医と指導医の大交流会　開催報告

群星沖縄研修委員長会議 副議長 沖縄協同病院 臨床研修管理委員長　仲程　正哲

群星沖縄は、第5期生となる60名（全国28大学出身）の新研修医を迎えることができた。

去る4月4日、サンセット美浜（北谷町）にて、「臨床研修病院群プロジェクト群星沖縄2008年度新研修医と指導医の大交流会」が開催された。

毎年恒例の2日間に亘って行われる新研修医オリエンテーションの締めくくりとしての大交流会である。

オリエンテーションは、5名の指導医（城間寛議長、井上徹英統括監、宮城征四郎センター長、真栄城尚志研修委員長、新里敬副議長）による講義や「新研修医と若手医師のトーク＆トーク」及び岸本暢将先生（亀田総合病院リウマチ膠原病内科医長・中部病院OB）の特別講演など充実した内容であった。群星新研修医の必読書である岸本先生の著「米国式プレゼンテーションが劇的に上手くなる方法」の実践的内容について、多数の新研修医から手があがり質疑応答も活発に行われた。

トーク＆トークや先輩研修医との交流ワークショップでは、初期研修に留まらず将来の医師像についてディスカッションもあり、新研修医の真剣な眼差しが印象的であった。

「新指導医と指導医の大交流会」は、南部徳洲会病院2年目研修医の河添啓介先生・栗林亮先生の軽快な司会で幕開けし、沖縄県福祉保健部保健衛生統括監の高江洲均先生、沖縄県医師会副会長の小渡敬先生より来賓祝辞、琉球大学第一内科教授の藤田次郎先生より乾杯のご挨拶を頂戴し和やかに交流した。

しばしの歓談の後、新研修医全員が舞台に上がり、7管理型病院毎に一人一人、自己紹介が行われた。個性派ぞろいの病院もあり、会場は大盛り上がりであった。

余興では、豊見城中央病院後期研修医の井口梓先生、同2年次研修医の前信友梨先生による可憐な琉球舞踊が披露され、三味線として同院の林優先生、中部徳洲会病院新研修医の渡邉洋平先生が舞台に上がり、交流会に花を添えてくれた。

群星沖縄を代表して挨拶に立った宮城征四郎センター長は、「群星臨床研修プログラムは、思想・信条を超えて国民のための良い医師を育成したいと願う同じ思いの沖縄の医療人が集い、27の医療機関が加わる一大プロジェクトに発展したこと、本邦では類例のない研修システムであること、研修医に施す指導や教育の見返りを求めたりしないこと、研修医が良き医療者として一日一日伸びて行くことを心から願っていること、大都会の医療だけを担う医療人として育つのではなく、医療僻地や離島に行っても当たり前の如く一医師として役立つ医療人になることを何よりも大事に考えている」と新研修医へ熱いメッセージが送られ、万来の拍手が会場を包んだ。

2日間のオリエンテーションを終えた新研修医から次のような感想が寄せられた。

「“研修は自分のためではなく国民のため”という宮城センター長の言葉にはっとさせられた」「自分を医師にしてくれた社会への恩返しという気持ちで来週から頑張りたい」「“国民を相手にする医療人”と言う言葉にとても感動した」「“今は専門を決めることはない、まず全体を診れる医師になることが重要だ”というお話

がとても勉強になった」「群星プロジェクトの理念や先輩医師との交流、他の群星メンバーとの関わりを通じてこれからの研修に対する目標を見つめなおすきっかけとなった」「群星にはロールモデルになる指導医が数多くおり、私も少しでもその理想に近づけるよう精一杯頑張りたい」等々、寄せられる新研修医の感想は途切れることを知らない。

「指導医や先輩研修医・後期研修医以外のスタッフの皆さんがこのオリエンテーションのために数多く働いていて、多くの人に支えられて自分たちは研修できているのだと実感した。沖縄に来てよかったです。これからもよろしくお願いします。」という感想もあった。

毎年新研修医を迎える春は、われわれ指導医側も身の引き締まる思いで新たな決意のときでもある。

沖縄県医師会会員の研修医指導へのご協力を、この紙面を借りて厚くお願いしたい。

原稿募集！

プライマリ･ケアコーナー（2,500字程度）

当コーナーでは病診連携、診診連携等に資するため、発熱、下痢、嘔吐の症状等、ミニレクチャー的な内容で他科の先生方にも分かり易い原稿をご執筆いただいております。

奮ってご投稿下さい。

第3回那覇市立病院前期臨床研修修了証交付式及び第5回臨床研修医採用辞令交付式

那覇市立病院　島袋　洋

新臨床研修医制度発足から5年が経過しました。全国各地の臨床研修医指定病院から、3年前より後期研修医（専修医）として各地の医療機関に巣立っています。当院でも今年は3期生10名の前期臨床研修を修了し、昨年7月に“所謂『壽』中断”の1名が3か月遅れではありましたが、無事研修を終了し平成19年度は11名の前期臨床研修修了医が巣立ちました。

今年も全員が沖縄県に留まる訳では有りませんが、ささやかながら沖縄県の医療界に貢献しているのではないかと自負はしています。しかし、指導医の先生方や看護師さん達をはじめ多くの医療スタッフや事務職員の支援・協力無しには達成できません。また、近隣の開業医、医療機関の先生方には温かいご支援・ご協力により研修医の地域医療研修を受け入れて下さり、改めて感謝申し上げます。

現在、那覇市立病院の研修医は4期生の12名に5期生の11名が加わり23名で、琉大医学部附属病院からの研修医も加わり25名前後が院内を蠢いております。研修医の初々しく活気のある溌剌とした仕草と患者さんに対する真剣な眼差しを身近で観ていますと、自身が大学医局に入局した頃のことを思い出します。病院全体も若いパワーの息吹を受けて活気が出て来ます。同時に私達も身を引き締め更に真剣に研修医への取り組みを充実させなければならないと意を強くしています。

新研修医は初期臨床研修を着実に修得し、周りの方々との協調性を大切に、患者さんへの心配りができる人間味豊かな、温かみのある医師に育って欲しいと願っています。それには周囲の心温まる一層の御支援、御鞭撻が必要です。

平成20年3月28日（金）

那覇市立病院前期臨床研修修了者（3期生）10名

：前列左から上原圭太（那覇市立病院　内科）、松田さやか（那覇市立病院　麻酔科）、田代朋子（琉球大学附属病院　産婦人科）、久高弘志臨床研修委員長、上原朋子（那覇市立病院　小児科）、古堅高之（那覇市立病院　内科）：後列左から筆者、平田知大（滋賀医科大学附属病院　整形外科）、上原史成（琉球大学附属病院　整形外科）、中田円仁（那覇市立病院　内科）、村方健治（那覇市立病院　内科）、安村　涼（琉球大学附属病院　皮膚科）、宜保哲也事務局長；敬称略、（　）内は赴任先

平成20年4月1日（火）

那覇市立病院臨床研修医採用者（5期生）11名

：前列左から石野理恵（琉大医）、平良理恵（琉大医）、與儀實津夫院長、佐渡山伸子（琉大医）、下門杉子（長崎大医）：後列左から上間貴仁（琉大医）、蝦名由紀子（琉大医）、瀬嵩万貴（琉大医）、平良優次（横浜市立大医）、平良　済（琉大医）、定金雅之（大阪市立大医）、上江洌一平（琉大医）；敬称略、（　）内は出身大学